

令和8年度

〇〇学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 〇分かる授業・児童の思考を深める授業の実践
- 〇言語活動を充実させ、児童の表現力を伸ばす授業の実践
- 〇子ども同士が互いに認め合い、学び合う授業の実践

校長

三好 英夫

学力向上推進員

北山 佳奈

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職・教員相互による授業参観、教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇与えられた課題にまじめに取り組むことができる児童が多く、漢字の読み書きや計算の力など、基礎的な力が身に付いてきている。電子図書を取り入れたり、読書の時間を確保したりすることで、読書に親しむ児童が増えてきている。 ●学習内容の理解や定着における個人差が大きく、個別支援の必要な児童が多い。語彙が少なく、文章の内容をイメージしたり正しく読み取ったりすることが苦手な児童が多い。文字を読むことを苦痛に感じている児童もいる。	・聞くこと・話すこと・書くことを大切にし、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。また、文章を正しく読み取ることができる。 ・学習の過程で習得した知識を、既習の知識と関連付け、他の学習や生活の場面において活用することができる。 ・苦手な学習課題に対しても、粘り強く取り組みることができる。 ・読書に親しみ、進んで読書をしようとするすることができる。	・他学年との系統を意識しながら、授業の計画を行い、板書や発問を工夫する。 ・朝の活動の時間等を活用し、計算や漢字、既習内容の復習など、基礎的な学力の定着を図る。 ・授業のまとめ・振り返りで、復習等の時間をとり、次時への学習につなげる。 ・ICTを効果的に活用し、授業を行う。 ・行事後の振り返りや感想などを書く機会をつくり、書く習慣をつけるようにする。 ・短文の聴写を取り入れて、助詞や長音等が正しく表記することができるようにする。 ・休日前に学校から本を家に持ち帰り、家庭でも読書を親しむようにし、継続して本にふれる機会をつくるようにする。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇静かに話を聞いたり、話者を見て話を聞いたりする意識が高まりつつある。 〇論理力ノートを活用することにより、理由をつけて意見を伝えることができるようになりつつある。 〇文章の書き出しを示すことにより、文章に書き表すことができる児童が増えてきている。 ●話を聞く姿勢が育っていない、集中力が続かないために、複数の意見や情報から判断する力や聞き取る力が弱い傾向にある。 ●自分の考えを筋道立てて相手に分かるように表現すること課題が見られる。	・話を最初から最後まで聞くことができる。 ・聞き手を意識した聞き取りやすい声のトーンや大きさ、スピードに気を付けて話すことができる。 ・必要な情報等を取り入れ、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりできる。	・思考力・判断力・表現力を高めるための方策を確認し、情報を交換しながら学校全体で取り組んでいくようにする。 ・「論理力ノート」の活用を継続し、理由をつけて意見を伝えることができるようにする。 ・教師からの問い返しを行い、子どもたちの考えがより深まるようにする。 ・ペア学習や話し合いの機会をつくり、互いの意見を聞いたり伝えたりできるようにする。 ・表現集会での感想発表時には、高学年の発表をモデルとして、より深まりのある意見交流の場となるようにする。 ・聞く姿勢のモデルを示したり、指示や内容を簡潔にして伝えたりするようにする。 ・スモールステップで、集中して話を聞く時間を伸ばしていくようにする。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇学習することが生活に生かされたり、生活の中から課題が生まれてそれを解決するために学習したりすることで、主体的に学習に取り組むことができる。 〇取り組み方に個人差はあるものの、自主学習の内容を自分なりに考えて意欲的に取り組んだり、テストに目標を持ったりすることができるようになってきている。 ●自分から見つけた疑問や課題に対して、意欲的に追究する態度が十分には育っていない。	・学習に主体的に取り組む、自ら課題や問題点を見つけ、進んで考え、学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、見通しをもって実践することができる。	・各教科における「主体的に学習に取り組む態度」とはどのような姿なのかを共通理解する。 ・めあてを子どもたちと一緒につくり、振り返りは次時へとつながるものにする。（自己調整力） ・個別最適な学びと協働的な学びについて再認識し、授業に取り入れる。授業の中にセルフスタディタイムを設定する。 ・学年に応じた自主学習の方法を提示し、よい取り組みを紹介・称賛する等、宿題以外の家庭学習にも進んで取り組むことができるようにする。			